

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果報告書

—令和2年度実績—



令和3年9月
栗原市教育委員会

目 次

1 点検・評価制度の概要	1
(1) 趣旨	
(2) 学識経験者の知見の活用	
(3) 点検及び評価の対象	
「栗原市教育基本方針」	
2 点検・評価の結果	
【学府くりはらの学校教育】	
創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	7
学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	8
自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	12
いじめを許さない学校づくりの推進	13
一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	14
健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	15
【学府くりはらの社会教育】	
生涯にわたる学習機会の提供	16
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	20
国際理解のための学習や事業の推進	22
文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	23
文化財の保存・活用と継承活動の推進	24
スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	26
3 学識経験者の意見	27
4 栗原市教育委員会の今後の方向性	28

1 点検・評価制度の概要

(1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の執行状況の点検・評価を行うことで、教育行政の課題や取組の方向性を明らかにします。

また、本報告書を議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図ります。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項において、点検・評価について教育に関する有識者の知見を活用することが規定されています。

学識者の選定にあたっては、専門的かつ広い観点からの知見を有している方を選定することとし、教育委員会が自己評価を行ったことに対して客観的なご意見をいただくために、現在、教育分野に携わっている方を2名選定しました。

○ 吉田 剛 氏

【現職】 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授

【専門領域】 学校教育学、社会科教育学

【研究テーマ】 カリキュラム開発、学校教育の経営と政策

○ 黒川 修行 氏

【現職】 宮城教育大学大学院教育学研究科 准教授

【専門領域】 学校保健、教育保健学

【研究テーマ】 子どもの健康と健康教育

(3) 点検及び評価の対象

令和2年度「栗原市教育基本方針」に基づく具体的施策に対し、教育委員会では実施した事務事業について、点検及び評価を行いました。

令和2年度 栗原市教育基本方針

栗原市教育委員会は、次代を担う子どもたちの創造性、主体性、社会性を育み、すべての市民が心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける「学府くりはら」形成のため、次のことを基本方針に掲げ、各種教育施策を総合的に推進する。

- 一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり
- 共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造
- 地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進
- 楽しさと活力ある生涯スポーツの推進

教育の目標及び具体的施策

「学府くりはら」の学校教育

学校教育の目標

- 創意と活力に満ちた特色ある学校の創造
- 子どもたちの確かな学力の育成
- 安全・安心な学校教育の推進
- 子どもたちの豊かな心の醸成
- 子どもたちの心身の健康と体力の向上

目指す『栗原っ子』像

- ・好奇心に満ち 自ら進んで学習する子ども
- ・感性豊かで 思いやりとやさしさのある子ども
- ・心身ともに健康で たくましく活動する子ども

「学府くりはら」の社会教育

社会教育の目標

- 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
- 地域に根ざした文化芸術の振興
- 文化財の保存と活用の推進
- 心身の健康保持増進とスポーツの推進

学校教育の具体的施策

【創意と活力に満ちた特色ある学校の創造】

<p>創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を推進するための35人を標準とする学級編制の実施 ② 個性を伸ばし、児童生徒一人一人に対応した教育を充実するための補助教諭や補助員の配置 ③ 教育環境整備の推進 ④ 幼児の心身の健全な発達を図るための事業の推進 ⑤ 幼児教育の充実と3年間の就園機会を図るための保護者の経済的負担の軽減 ⑥ 経済的理由により、就学困難な児童生徒に対する学用品等の援助 ⑦ 特別支援教育の普及奨励を図るための特別支援学級に在籍している児童生徒の保護者の経済的負担の軽減 ⑧ 通学における利便と安全確保を図るための遠距離通学の幼児、児童及び生徒への通学支援 ⑨ 保護者・地域への教育方針、教育目標等の明確な説明と学校評価の実施 ⑩ 学校における「働き方改革」の推進
------------------------------	---

【子どもたちの確かな学力の育成】

<p>学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 市独自の研究指定校に勤務する教員を中心に、先進地（秋田県大仙市）に派遣する研修事業を軸とした、より効果的な学力向上対策の共有と推進 ② 教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の交流・研修、教育相談等の推進 ③ 学力向上に向けた学習指導法の工夫や改善を推進する学校への支援 ④ 全国学力・学習状況調査、県学習意識調査、県英検I B A、市独自の標準学力テストの実施と結果分析による課題の把握に基づいた継続的な検証改善サイクルの確立などをはじめとする教員の指導力の向上 ⑤ 教科指導等におけるICTの効果的な活用を図るための研修会の実施 ⑥ 小中学校のICT環境の充実（生徒用学習端末を一人一台、高速ネットワーク環境の整備）による、デジタル教科書やプログラミング教育の推進 ⑦ 国際理解を深め、英語教育の充実を目指したALTの配置と英語に慣れ親しむための事業や教員対象の研修会の実施 ⑧ 自ら学ぶ意欲や問題解決能力の向上及び自主的学習の習慣化を図るための学習会の実施 ⑨ 家庭における学習習慣の確立に向けた教員や保護者を対象とした講演会の実施 ⑩ 経済的な理由により修学することが困難な生徒や学生に対する奨学資金の貸与
---	---

【安全・安心な学校教育の推進】

<p>自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 栗駒山麓ジオパーク等を活用した自らの命を守るための防災教育等の推進 ② 防犯を含む生活安全教育や交通安全教育の推進 ③ 児童生徒の安全確保を図る校内危機管理体制の確立と関係機関との連携強化 ④ 通学路の安全の確保のための関係機関等との連携と適切な対策の推進 ⑤ 学校の防犯、防災及び安全管理体制の整備推進
-------------------------------------	--

【子どもたちの豊かな心の醸成】

いじめを許さない学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 「栗原市いじめ防止基本方針」や「学校（園）いじめ防止基本方針」に基づく、教育相談等の取組の推進 ② いじめや不登校などの解決に向けた警察や関係機関との円滑な連携と情報共有の推進 ③ いじめ問題の重大事態の調査の実施やいじめ・不登校対策担当者等を中心としたいじめ防止対策体制の強化 ④ いじめの未然防止及び早期発見のためのQ-U調査等の結果の活用を図る研修会の実施 ⑤ 人間関係づくりや学級活動への意欲、学びや進路選択・実現の意欲に満ちた学級づくりの推進 ⑥ 命を大切にする教育の推進 ⑦ インターネット等の情報やSNSについての正しい活用の仕方を身に付けさせる情報モラル教育の推進
一人一人を大切に、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の夢や目標の実現のためによりよい生き方を主体的に探求する志教育の充実と推進 ② 幼稚園及び保育所から小学校への円滑な接続を図る教育課程の編成と連携の推進 ③ 教育相談事業の実施とその対応策等の指導・助言の支援 ④ 不登校児童生徒の学校復帰を目指した子どもの心のケアハウス事業と適応指導教室の運営、登校支援ネットワーク事業の活用 ⑤ 支援を必要とする児童生徒への理解を深め、自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進と関係機関との連携を図る協議会の開催 ⑥ 特別支援コーディネーターのスキルアップと関係機関との連携の推進や校内支援体制の構築を図るための研修会の実施 ⑦ 支援を必要とする児童生徒の保護者等との合意形成と児童生徒の立場に立った適切な就学指導の実施 ⑧ 発達障害や困り感のある児童生徒の教育的ニーズに応じ、関係機関と連携し、生活や学習の困難を改善するための「個別の教育支援計画」の作成及び活用に向けた支援

【子どもたちの心身の健康と体力の向上】

健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 体力の向上と生涯スポーツの基礎を培う体育指導の推進 ② 部活動方針に則った時間帯での活動によるバランスの取れた生活習慣の確立 ③ 望ましい食習慣やバランスの取れた食生活確立のための食育の推進 ④ 安全安心な学校給食の提供と食物アレルギー対策の実施 ⑤ 学校保健活動の活性化と学校医等との連携による健康指導の推進 ⑥ 幼児、児童及び生徒並びに教職員の健診事業の継続実施
----------------------	--

社会教育の具体的施策

【「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興】

生涯にわたる学習機会の提供	【家庭教育の支援】 ① 子ども及び保護者を対象とした学習機会の提供 ② 地域ぐるみによる家庭教育支援の充実 ③ 関係機関と連携した子育て支援の推進
	【青少年期の活動支援】 ① 地域少年団体の育成と活動の支援 ② 青少年教育推進体制の整備 ③ 学習、交流活動の機会と場の提供 ④ 協働教育事業の推進 ⑤ 放課後児童健全育成の推進 ⑥ 青年団体及びサークルの育成、支援
	【成年期の活動支援】 ① 学習、交流活動の機会と活動の場の提供及び支援 ② 成人教育体制の整備を目標とする生涯学習団体及び指導者等の育成 ③ 高齢者の健康・生きがいづくり事業の提供
生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	① 各種教育機関と連携した各種講座・教室・活動の開催 ② 学習情報の提供 ③ 地域の人材活用を図るための指導者の発掘と育成 ④ 市民の学習ニーズの把握 ⑤ 社会教育施設の充実と学習環境の整備 ⑥ コミュニティ事業と連携した生涯学習の推進 ⑦ 図書館及び図書室が連携したサービスの充実
国際理解のための学習や事業の推進	① 海外派遣事業の充実 ② 外国人との交流事業の推進 ③ 国際交流関係団体との連携強化

【地域に根ざした文化芸術の振興】

文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	① 文化芸術を生かした活動の推進と自主活動への支援 ② 文化芸術事業の開催及び鑑賞する機会の提供 ③ 文化芸術体験機会の拡充 ④ 文化施設の設備充実と環境整備
--------------------------	--

【文化財の保存と活用の推進】

文化財の保存・活用と継承活動の推進	① 地域の文化財の調査、保存・活用と公開 ② 史跡等の環境整備の推進 ③ 文化財への理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実 ④ 伝統文化の継承と後継者育成の支援
-------------------	---

【心身の健康保持増進とスポーツの推進】

スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	① スポーツを行う場の提供と、市民の健康づくりや体力づくりへの支援 ② スポーツ指導者の育成・指導とスポーツ人口の拡大 ③ 社会体育施設の設備充実と環境整備 ④ 総合型地域スポーツクラブの育成と創設に関する支援 ⑤ 各種スポーツ大会における関係団体や学校との連携強化 ⑥ 東京オリンピック事前キャンプ誘致に向けた取り組み
------------------------	---

2 点検・評価の結果

点検及び評価項目一覧（令和2年度実績）

基本方針	基本目標	具体的施策	具体的事業	自己評価
一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援	1 「幼稚園、小・中学校のホームページの適切な更新」	D
	子どもたちの確かな学力の育成	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成	2 「教育研究センター事業」	A
			3 「学力向上対策プロジェクト事業」	B
			4 「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	A
			5 「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」	A
	安全・安心な学校教育の推進	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進	6 「地域と連携した防災訓練の実施」	A
	子どもたちの豊かな心の醸成	いじめを許さない学校づくりの推進	7 「命を大切にす教育」の実践	B
		一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進	8 「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」「心のケアハウス事業」	B
子どもたちの心身の健康と体力の向上	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実	9 「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」	A	
共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興	生涯にわたる学習機会の提供	10 「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	B
			11 「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等	B
			12 「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）	A
			13 「くりはら市民大学」	—
		生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実	14 「協働教育推進事業」	B
			15 「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」（図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）	B
			16 「青空大使派遣事業」	—
地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	地域に根ざした文化芸術の振興	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進	17 「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」	D
	文化財の保存と活用の推進	文化財の保存・活用と継承活動の推進	18 「文化財標柱等整備事業」	A
			19 「文化財普及啓発活動事業」	A
楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	心身の健康保持増進とスポーツの推進	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実	20 「築館陸上競技場改修工事」	A

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	創意と活力に満ちた特色ある学校の創造																																																							
	具体的施策	創意と活力に満ちた特色ある学校経営への支援		担当課 学校教育課																																																							
1 目的																																																											
次代を担う人材の育成と豊かな人間形成を目指し、心身ともに健康で「知性と創造性に富み、心豊かでたくましい人間の育成」に努めるため、多様な方策による学校経営への支援を行い、創意と活力に満ちた特色ある学校を創造する。																																																											
2 具体的事業																																																											
施策を構成する事業			目標指標																																																								
1「幼稚園、小・中学校のホームページの適切な更新」			幼稚園及び小・中学校のホームページをそれぞれ10回以上更新する。																																																								
事業概要及び目標																																																											
開かれた幼稚園、小・中学校を目指し、学校だより等を定期的に発信するため、小・中学校のホームページ更新等を適切に行う。ホームページの内容として、学校だよりのほか定期的に行事等を掲載し、広く住民に学校活動の周知を図る。			<table border="1"> <tr> <td>現状値（令和元年度）</td> <td>幼稚園</td> <td>9/9園</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>7/12校</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校</td> <td>5/7校</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値（令和2年度）</td> <td>幼稚園</td> <td>9/9園</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>12/12校</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校</td> <td>7/7校</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率（令和2年度）</td> <td></td> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>幼稚園</td> <td>0/9園</td> <td>達成率</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>8/12校</td> <td>達成率</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校</td> <td>5/7校</td> <td>達成率</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td></td> <td>達成率</td> <td>46.4%</td> </tr> </table>		現状値（令和元年度）	幼稚園	9/9園				小学校	7/12校				中学校	5/7校			目標値（令和2年度）	幼稚園	9/9園				小学校	12/12校				中学校	7/7校			達成率（令和2年度）			達成率			幼稚園	0/9園	達成率	0.0%		小学校	8/12校	達成率	66.7%		中学校	5/7校	達成率	71.4%		計		達成率	46.4%
現状値（令和元年度）	幼稚園	9/9園																																																									
	小学校	7/12校																																																									
	中学校	5/7校																																																									
目標値（令和2年度）	幼稚園	9/9園																																																									
	小学校	12/12校																																																									
	中学校	7/7校																																																									
達成率（令和2年度）			達成率																																																								
	幼稚園	0/9園	達成率	0.0%																																																							
	小学校	8/12校	達成率	66.7%																																																							
	中学校	5/7校	達成率	71.4%																																																							
	計		達成率	46.4%																																																							
3 令和2年度の取組と自己評価																																																											
取組と成果																																																											
<p>小・中学校については、令和2年度は年間10回以上の更新目標を掲げ、達成状況については、小学校で66.7%、中学校で71.4%となった。</p> <p>幼稚園については、ホームページの編集システムの操作が出来る職員がいないため、学校教育課で更新作業を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で活動等が少なかったことで更新しなかった月もあり、更新は8回と目標達成はできなかった。</p>																																																											
【達成状況】																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>園・校数</th> <th>達成園・校数</th> <th colspan="2">達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>9</td> <td>0</td> <td colspan="2">0.0%</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>12</td> <td>8</td> <td colspan="2">66.7%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>7</td> <td>5</td> <td colspan="2">71.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28</td> <td>13</td> <td colspan="2">46.4%</td> </tr> </tbody> </table>						園・校数	達成園・校数	達成率		幼稚園	9	0	0.0%		小学校	12	8	66.7%		中学校	7	5	71.4%			28	13	46.4%																															
	園・校数	達成園・校数	達成率																																																								
幼稚園	9	0	0.0%																																																								
小学校	12	8	66.7%																																																								
中学校	7	5	71.4%																																																								
	28	13	46.4%																																																								
評 価																																																											
D	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																																																										
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																																																											
幼稚園及び小・中学校における活用の促進と定期的な更新が必要である。幼稚園で更新できる体制づくりや迅速な更新作業が行えるよう担当部署との調整が必要である。			更新目標が達成できなかった幼稚園及び小・中学校に目標の達成を促すとともに、更新内容を統一し保護者等にホームページの公開を周知、閲覧の回数を増やす。また、幼稚園でのホームページの編集が容易に行える環境を整える。																																																								
5 学識経験者の意見																																																											
感染症対策に注視しなければならないが、ホームページ更新、それに伴う適切な行動内容の掲示には、やはり責任ある対応が求められる。学校組織や編集環境の改善も必要であるが、地域住民の教育に対する期待と協働にも関わるため、重点課題として引き継ぐ必要がある。																																																											

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																
1 目的																				
幼児児童生徒一人一人の「生きる力」の要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育む教育及び個性を生かす教育を推進するため、教職員の資質・能力と指導力の向上を図る。																				
2 具体的事業																				
施策を構成する事業		目標指標																		
2「教育研究センター事業」		研修受講者の満足度（「大変参考になった」と「参考になった」の合計）の向上																		
事業概要及び目標		<table border="0"> <tr> <td>現状値（令和元年度）</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>目標値（令和2年度）</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和2年度）</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.7%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">※ICT及び英語科・外国語活動研修会(新規)</td> </tr> <tr> <td>目標値（令和2年度）</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和2年度）</td> <td>97.3%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>108.1%</td> </tr> </table>			現状値（令和元年度）	99.3%	目標値（令和2年度）	99.0%	実績値（令和2年度）	99.7%	達成率	100.7%	※ICT及び英語科・外国語活動研修会(新規)		目標値（令和2年度）	90.0%	実績値（令和2年度）	97.3%	達成率	108.1%
現状値（令和元年度）	99.3%																			
目標値（令和2年度）	99.0%																			
実績値（令和2年度）	99.7%																			
達成率	100.7%																			
※ICT及び英語科・外国語活動研修会(新規)																				
目標値（令和2年度）	90.0%																			
実績値（令和2年度）	97.3%																			
達成率	108.1%																			
交流・研修事業、学力調査等の分析、教育情報の収集・提供、児童生徒への学習支援、児童生徒及び保護者、教員の教育相談の拠点として、「学府くりはら」の着実な実現のため、センターで実施する研修内容の充実を図る。特に、個に応じた指導推進のためICT機器を活用した授業力向上と国際感覚豊かな人材の育成のための英語科・外国語活動を指導する教職員の授業力の向上を図るための研修を充実させる。																				
3 令和2年度の取組と自己評価																				
取組と成果																				
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止策の一環として8月までの研修会を中止または、延期した。9月より運営方針「交流」「支援」「発信」の下、市内教職員の学びを止めないようオンラインや参加人数の縮小などを実施しながら、事業の実施に努めた。</p> <p>○ 特任教授による学力向上研究指定校への授業づくり支援の充実 市独自の標準学力調査結果の分析、各校の教員の指導力の実態等を把握し、よりきめ細やかな支援を実施した。特に指導案作成時からの支援・助言を今年度は実施するなど、初期段階から授業づくりに関わり指導力向上に努めた。</p> <p>○ 「外国語活動・英語科研修会」の実施 コロナ禍において計画していた研修会を急遽中止した。今年度より小学校外国語科が完全実施のため教員の指導力向上を止めないようオンラインを活用した中央講師による講義や担当者による情報交換会を実施した。また、参加者より自主公開授業の要望があり、市内2校において実施した。</p> <p>○ 「ICT研修会（出前研修含む）」の実施 市内の小中学校12校において18回の出前研修会を実施した。8校において模擬授業を伴った研修、5校でICT機器活用のスキルアップ研修、1校でプログラミング教材の研修を実施するなどより実践的な内容の研修会を行った。また、タブレット端末等が整備されることから、学習ネットワーク活用研修会を2回、タブレット端末活用研修会を2回を新規に実施するとともに、校内での伝講研修会を市内全ての小中学校において実施した。</p> <p>全研修会の受講者数は延べ3,304名である。コロナ禍のため8月末まで研修の延期・中止が続き年度後半からの研修開始となったが前年比38%の減少幅に留めることができた。研修に対する満足度の達成率は、研修全体で100.7%、新規の研修で108.1%という結果であった。</p>																				
評価																				
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																			
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																				
研修内容の確実な定着のため、より主体的な研修への転換が必要である。また、喫緊のニーズに対応した研修を設定し指導力の更なる向上を目指す。		➔	<p>研修の進め方、方法などについて参加者自身が考える研修会を実施する。</p> <p>①ICT活用研修会（情報担当者）</p> <p>②小・中学校外国語教育研修会</p> <p>③算数・数学科授業づくり研修会</p>																	
5 学識経験者の意見																				
研修機会の充実は、順調とみられる。ただし、研修を受けた教員の教育力の向上にどのように具体的に現場で役立ったのか、少なからず確認できる機会を設けたい。例えば、後に簡易なアンケート調査の実施などが考えられる。他方で、学習習慣の確立のための研修や、児童生徒自身のタブレット活用のための研修などにも一層目を向けたい。																				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成																			
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課																			
1 目的																							
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。																							
2 具体的事業																							
施策を構成する事業			目標指標																				
3 「学力向上対策プロジェクト事業」			「NRT（全国標準学力検査）」の偏差値 ※ 全国の偏差値を50としたときの全国と栗原市の比較																				
事業概要及び目標																							
新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、削減された指導時数を確保するとともに、学びの保障を目指した学習を推進する。 このことから、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により、「全国学力・学習状況調査」は実施しないため、「NRT（全国標準学力検査）」の結果を目標値とする。			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 (令和元年度)</th> <th>目標値 (令和2年度)</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校 国語</td> <td>49.7</td> <td>50.0</td> <td>50.9</td> </tr> <tr> <td>小学校 算数</td> <td>49.4</td> <td>50.0</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>中学校 国語</td> <td>49.2</td> <td>50.0</td> <td>49.4</td> </tr> <tr> <td>中学校 数学</td> <td>47.6</td> <td>50.0</td> <td>46.8</td> </tr> </tbody> </table>		現状値 (令和元年度)	目標値 (令和2年度)	実績値	小学校 国語	49.7	50.0	50.9	小学校 算数	49.4	50.0	49.6	中学校 国語	49.2	50.0	49.4	中学校 数学	47.6	50.0	46.8
	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和2年度)	実績値																				
小学校 国語	49.7	50.0	50.9																				
小学校 算数	49.4	50.0	49.6																				
中学校 国語	49.2	50.0	49.4																				
中学校 数学	47.6	50.0	46.8																				
3 令和2年度の取組と自己評価																							
取組と成果																							
各小中学校が新型コロナウイルス感染症の対応に取り組みながら、学習内容の精選や単元の組み換え、学校行事の見直しにより、年間授業時数の確保に努めた。 教育委員会としても各学校に対して、新型コロナウイルス感染症に対応したグループ活動の進め方や体育科や音楽科等の「授業づくり」について手引書等を配布した。夏季休業の短縮等により、8月頃までにはほぼ授業の遅れを取り戻した。 新型コロナウイルス感染症のため、令和2年度全国学力・学習状況調査は中止になったが、市独自でNRTテスト（全国標準学力検査）を7月に実施した。臨時休業に伴い、学習内容の確実な定着ができず、学力低下を懸念したが、小学校では、全国平均とほぼ同じであることが分かったが、中学校では、学年が上がるにつれて全国平均より3～4ポイント下回っていた。 結果を受け、教育センターでは、特任教授が問題ごとに誤答の要因について分析し、各学校に情報提供し、各校は授業改善を進め、児童生徒にコロナ禍における学びの保障に努めた。																							
評 価																							
B	A	良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																					
	B	概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																					
	C	やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																					
	D	課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																					
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																							
1人1台タブレット端末を整備したことから、学力向上に向けた授業実践にタブレット端末をどのように位置付けていくか検討していく必要がある。			➡	探求型の学習スタイルをさらに定着させるとともに、整備されたタブレット端末を各学習段階の中で効果的に活用することで児童生徒の興味関心の向上と学力の定着を図っていく。																			
5 学識経験者の意見																							
継続的な学習のために、授業内におけるタブレット活用の一層の充実が求められる。その際に、家庭学習も含めた予習・復習時の扱い方なども検討する必要がある。加えて、デジタル教科書との対応も考え、教師と児童生徒の一体化した学習の取り組み方を、教員に広く共有・普及させる方向が望まれる。																							

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課

1 目的

多様な手法により、学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
4「学力向上支援事業」「学府くりはら塾」「学び支援コーディネーター等配置事業」	放課後学習会、週末学習会などに参加した小学生の満足度（勉強になったと回答した割合）
事業概要及び目標	現状値（令和元年度） 95.3%
家庭との連携による自主学習の習慣化と、家庭学習の内容を充実させるため、宮城教育大学との連携により、中学生を対象として長期休業中に「学府くりはら塾」を実施する。また、「学び支援コーディネーター等配置事業」の中で小学生を対象とした「放課後学習会」「週末学習会」「長期休業中の学習会」を実施する。	目標値（令和2年度） 96.0%
	実績値（令和2年度） 98.0%
	達成率（令和2年度） 102.1%

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

「学び支援コーディネーター等配置事業」における「放課後学習会」は、市内12小学校中8校（67%の小学校）で実施した。それぞれの学習会に参加した児童は、自ら目標を設定し、その達成を目指し自主学習に進んで取り組んでいた。参加児童からは「分かるようになった」「一緒に勉強できる新しい友達ができた」等、学習に対して意欲的な感想が多く寄せられた。実施前後の調査から、全項目で目標値を上回る結果となり、事業の成果を確認することができた。また、他校の友達と積極的に交流したり、一緒に勉強したりする姿が見られ、互いに教え合う場面も見られた。「放課後学習会」では当該学校から参加児童の学習状況等を事前に聞いたり、「週末学習会」「長期休業中の学習会」では申込書の中に希望する学習内容等の記述欄を設けるなど、児童の実態に応じた支援に努めたことも満足度が高かった一因と考える。

なお、新型コロナウイルス感染症のため、夏休み学習会と2回の週末学習会を中止にしたが、その他は予防対策を徹底し、実施した。

事業名	放課後学習会	週末学習会	冬休み学習会
期間	6月～2月（のべ91回）	10月～2月（計4回）	12/26～12/28
場所	市内小学校8校	栗原文化会館及び市教育研究センター	栗原文化会館及び市教育研究センター
対象者	小1～6	小3～6	小3～6
参加者（のべ）	11,902人	200人	233人
全児童あたりの参加率	56.4%	10.4%	12.2%
前年度の参加率	34.1%	8.9%	9.7%
満足度	96.1%	97.8%	100.0%

評価

A

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

感染症対策を引き続き徹底しつつ、参加児童生徒の実態や要望等に応じた支援を、該当学校からの聞き取りや申込時の確認などにより、工夫していくことが課題である。



感染症対策を徹底し、くりはら未来塾が円滑に実施できる体制を構築する。

5 学識経験者の意見

参加した小学生の満足度が高い数値となってみられる。感染症対策の充実とともに、保護者に対する教育意識を醸成させながら、外部機関やボランティア団体などとの連携を一層充実させたい。実施においては、参加した児童にも達成感を味わえる工夫もこらしたい。例えば、学校の成績に相関がみられるなど、一層前向きに公表する機会を設ける事が考えられる。

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの確かな学力の育成	
	具体的施策	学力向上を図るための学習指導法等の工夫・改善及び学習規律・学習習慣の形成		担当課 学校教育課	
1 目的					
多様な手法により、学力向上を図るための学習指導等の工夫・改善及び学習習慣の形成を行い、確かな学力の育成と、学びの連続性を確立する。					
2 具体的事業					
施策を構成する事業			目標指標		
5「国際田園都市づくり英語教育導入事業」「語学指導外国青年招致事業」			中学2年生の英語能力測定テスト（I B A）の3級以上の割合		
事業概要及び目標			現状値(令和元年度) 7.2% (33人/456人) 目標値(令和2年度) 8.2% (40人/490人) 実績値(令和2年度) 16.0% (73人/455人) 達成率(令和2年度) 195.1%		
ALTを活用した指導の工夫と実践の累積により、外国語に興味関心を持たせる。また、JETプログラムにより、各中学校に外国語指導助手を配置し、生徒の外国語教育充実と国際理解を深める。併せて、学校のクラブ設置を積極的に働きかける。					
3 令和2年度の取組と自己評価					
取組と成果					
<p>小学校外国語活動については、ノンJET（民間への業務委託）のALTを4人、JET（国の外国青年誘致事業）のALTを7人、計11人配置している。特に、新学習指導要領の本格実施に伴い、3・4年生35時間、5・6年生70時間の授業をALTと一緒に学習し、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の充実を図った。また、各幼稚園に英語の音楽CDを配布し、英語に慣れ親しむ機会を設けた。</p> <p>そのことにより、児童生徒の外国語に対する興味関心が高まっており、中学校2年生では、英語能力測定テスト（I B A）で3級以上に合格する生徒が増加するなどの成果として表れている。</p> <p>外国語に関するクラブ活動の設置については、各校に働きかけたものの、ALTの勤務時間等の関係があり実施が難しかった。</p>					
ALT配置状況					
		小学校		中学校	
	校数	学校名	校数	学校名	
J E T	2校	瀬峰、志波姫	7校	築館、若柳、栗駒、栗原南、栗原西、金成、志波姫	
ノンJ E T	10校	築館、宮野、若柳、栗駒、栗駒南、高清水、一迫、鶯沢、金成、花山	—	—	
評 価					
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）				
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）				
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）				
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）				
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針					
ALTの積極的な活用を図り、書くこと・読むこと・話すこと等、児童生徒のコミュニケーション能力育成を目指した授業づくりの実践に努める。			➡	市教育研究センターによる「外国語教育研修会」（計10回）等を通して、小中学校教員の指導力向上を図り、ALTと連携した授業づくりを進める。	
5 学識経験者の意見					
目標値を大幅に上回る結果が得られた。ただし、総数に対する目標数が少なく、1割も満たない。今後は、将来を見据えて2割程度の目標設定が必要である。その際に、ALTの数と配置校の工夫も重要であるが、外国語活動そのものの質の向上や英語活動イベントの充実なども図っていききたい。					

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	安全・安心な学校教育の推進																								
	具体的施策	自らの命を守るための防災教育と安全・安心な学校教育の推進		担当課 学校教育課																								
1 目的																												
自らの命を守るための防災教育を推進し、安全・安心な学校を目指し、幼児児童生徒の安全確保と学校の安全管理に万全を期する。																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業			目標指標																									
6 「地域と連携した防災訓練の実施」			学校と地域の防災に関する意見交換を行う機会の設定																									
事業概要及び目標																												
地域と連携した防災訓練の必要性について、各園及び小中学校に働きかけ、自分の命は自分で守る教育を推進する。また、園・学校における危機管理意識を向上し、幼児児童生徒の命を守るための防災体制づくりを支援するため、防災マニュアルの改善を働きかける。			<table border="1"> <tr> <td>現状値(令和元年度)</td> <td>75.0% (21/28校)</td> </tr> <tr> <td>目標値(令和2年度)</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値(令和2年度)</td> <td>92.9% (26/28校)</td> </tr> <tr> <td>達成率(令和2年度)</td> <td>103.2%</td> </tr> </table>		現状値(令和元年度)	75.0% (21/28校)	目標値(令和2年度)	90.0%	実績値(令和2年度)	92.9% (26/28校)	達成率(令和2年度)	103.2%																
現状値(令和元年度)	75.0% (21/28校)																											
目標値(令和2年度)	90.0%																											
実績値(令和2年度)	92.9% (26/28校)																											
達成率(令和2年度)	103.2%																											
3 令和2年度の取組と自己評価																												
取組と成果																												
<p>爆破予告や特別警報、土砂災害、浸水等について、各学校に常に最新の情報を提供し、各校の防災マニュアルや危機管理マニュアルを改訂するよう教頭会等で周知してきた。</p> <p>特に、爆破予告の際には、教育委員会から迅速に各校にマニュアルを配布し、各校が共通理解・共通行動のもと、児童生徒の安全確保を最優先に行動することができた。また、新型コロナウイルスの対応については、各校に随時、最新情報の提供や、スクールサポートスタッフを配置するなどして、学校からクラスターを発生させなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症予防対策には、保護者だけでなく、地域の方々にも学校の取組等を積極的に公開し、理解してもらう必要があることを各学校に周知した。</p>																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">地域との意見交換の実施</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実施校数</th> <th>園・校数</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>77.8</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>92.9</td> </tr> </tbody> </table>					地域との意見交換の実施					実施校数	園・校数	割合(%)	幼稚園	7	9	77.8	小学校	12	12	100.0	中学校	7	7	100.0	計	26	28	92.9
地域との意見交換の実施																												
	実施校数	園・校数	割合(%)																									
幼稚園	7	9	77.8																									
小学校	12	12	100.0																									
中学校	7	7	100.0																									
計	26	28	92.9																									
評価																												
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)</p> <p>C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)</p> <p>D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)</p>																											
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																												
防災マニュアル等により行動した後の課題を取りまとめ、分析し、優れた実践等を市内に周知するなど、実効性のある取組を推進していく必要がある。			➡	各学校の防災マニュアルを確認し、実践上の課題をまとめるとともに、市防災主任研修会等の機会を通して、防災に関わる優れた取組について紹介各校での実践を促す。																								
5 学識経験者の意見																												
意見交換の機会は、充実した結果となった。今後、防災などの改善点をさらに見だし、各状況の対応レベルを児童生徒・保護者に周知させるとともに、実践に繋げたい。他方で児童生徒理解とともに、顕在化しづらいネット犯罪などのサイバー空間上のトラブルにも十分に目を向けておきたい。																												

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成
	具体的施策	いじめを許さない学校づくりの推進		担当課 学校教育課
1 目的				
いじめを許さない学校づくりを推進し、豊かな心を育む教育の推進と、問題の未然防止と早期発見・早期対応に努める。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
7「命を大切にせる教育」の実践			Q-U調査（学級生活満足度尺度調査）において「いじめはいけないことだと思う」と回答する児童生徒の割合	
事業概要及び目標				
いじめの未然防止と早期発見に努めるため、自他の命を大切に、自分自身の良さを見つめる命を大切にせる授業づくりを推進する。また、確実な実施に向けた授業支援と学校評価項目への位置付けにより、進捗状況の管理に努め、自他の命を大切にせる児童生徒の育成を目指す。			<p>現状値（令和元年度）小学生 87.1% 中学生 85.8%</p> <p>目標値（令和2年度）小学生 90.0%以上 中学生 90.0%以上</p> <p>実績値（令和2年度）小学生 82.3% 中学生 86.7%</p> <p>達成率（令和2年度）小学生 91.4% 中学生 96.3%</p>	
3 令和2年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>「命を大切にせる教育」の授業づくりを確実に推進するため、教育計画への位置付け及び年間2時間以上の実践を各校へ依頼した。また、「命を大切にせる教育」を生徒指導の面だけでなく、防災教育や福祉教育等の各種教育でも効果的に実践するよう指導した。このことにより、各校では授業や各種教育活動等において「命を大切にせる教育」を意図的に取り入れ、効果的な実践を行うことができた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、学級づくりが課題であったが、昨年度末からの臨時休業の影響をできる限り少なくしようと、学校が一丸となって学級・学年づくりや生徒指導、教育相談等に取り組んだ。その成果、各校においては、落ち着いた温かい雰囲気の中で学校活動を実践することができた。</p>				
いじめはいけないことだと思うか。（小学生）		いじめはいけないことだと思うか。（中学生）		
	県	栗原市	県	栗原市
あてはまる	82.9	82.3	82.4	86.7
どちらか言えばあてはまる	12.9	12.6	13.9	11.9
どちらか言えばあてはまらない	2.4	2.2	2.4	0.6
あてはまらない	1.7	2.7	1.3	0.8
評価				
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）			
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）			
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）			
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針				
Q-U調査の結果と活用について、結果を生かした授業づくりや集団づくりのために、教員の活用力を伸ばしていく必要がある。		➡	栗原市教育研究センターのQ-U活用研修会を通して、誰もが居心地のよい学級集団づくりを推進し、いじめを許さない子どもたちに育てていく。	
5 学識経験者の意見				
Q-U調査の活用の一層の充実が求められる。ただし意識傾向の結果とともに、いじめに限らず、広く人権教育を推進していく先取的な姿勢（先手的な取り込み）や、そのための具体的な教育計画（学級活動、全教科・領域教育、クロスカリキュラムづくりなど）および実践を深める必要性も考えられる。				

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの豊かな心の醸成																																																												
	具体的施策	一人一人を大切にし、豊かな心を育むための道徳教育、生徒指導及び特別支援教育の推進		担当課 学校教育課																																																												
1 目的																																																																
一人一人に夢と希望を持たせ、人間性豊かな心と主体的・自立的な態度の育成と障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進を図る。 また、豊かな心と主体的・自立的な態度を育成するための教育相談事業や、不登校に悩む児童生徒の学校復帰を目指し、児童生徒に教育的ニーズに応じた支援を実施する。																																																																
2 具体的事業																																																																
施策を構成する事業			目標指標																																																													
8「教育相談員の配置」「適応指導教室事業」「心のケアハウス事業」			不登校児童生徒の「心のケアハウス」や「適応指導教室」等の活用割合																																																													
事業概要及び目標			現状値（令和元年度） 18.8% ～不登校総数80人中、活用品者15人～ 目標値（令和2年度） 25.0% 実績値（令和2年度） 20.9% ～不登校総数67人中、活用品者14人～ *活用品者は、けやき教室正式通所7人、心のケアハウス利用7人 達成率（令和2年度） 83.6%																																																													
学校生活への適応指導の充実を図るため、教育相談員1人を配置して、いつでも相談支援ができる体制を整備する。また、適応指導教室を設置し、栗原市在学青少年指導員2人と在学青少年指導員補助員2人を配置する。さらに心のスーパーバイザー1人、学習サポーター2人、訪問指導員を1人を配置し、学校不適応傾向の児童生徒へ心の居場所づくりや学習の場を保障し、登校に向けての支援を行う。																																																																
3 令和2年度の取組と自己評価																																																																
取組と成果																																																																
心のケアハウス、けやき教室及びスクールソーシャルワーカーが連携しながら、不登校及び別室登校等、不登校傾向の児童生徒の実態に応じた支援に努めた。特に、スクールソーシャルワーカーが該当家庭と繰り返し面談を行い、不登校傾向の児童生徒の心の居場所づくりと学習支援を促すとともに、児童生徒の自立支援を図った。また、早期に小学生の不登校及び別室登校等の対応に応じるため、学校から要請があればすぐに非常勤で学習サポーターを任用し、個別指導や集団生活への適応指導を実施した。																																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>対応日時及び時間</th> <th colspan="5">対応状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育相談</td> <td>火・水・金 8:30～17:15</td> <td colspan="5">来庁相談：2件、電話相談：2件、学校訪問相談：18件、その他65件</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">けやき教室</td> <td rowspan="4">月～金 8:30～15:30</td> <td colspan="2">開所日数</td> <td colspan="3">185日</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">通所人数</td> <td>小学6年生</td> <td>中学1年生</td> <td>中学2年生</td> <td>中学3年生</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>正式通所</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>4人</td> <td>1人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>体験通所</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>7人</td> <td>0人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2人</td> <td>3人</td> <td>11人</td> <td>1人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">心のケアハウス</td> <td rowspan="3">月～金 8:30～16:30</td> <td>来所支援</td> <td colspan="3">心のサポート1名、学びサポート1名、保護者面談0名</td> <td rowspan="3">7人</td> </tr> <tr> <td>学校支援</td> <td colspan="3">心のサポート6名、学びサポート6名、保護者面談0名</td> </tr> <tr> <td>家庭訪問支援</td> <td colspan="3">心のサポート0名、学びサポート0名、保護者面談0名</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	対応日時及び時間	対応状況					教育相談	火・水・金 8:30～17:15	来庁相談：2件、電話相談：2件、学校訪問相談：18件、その他65件					けやき教室	月～金 8:30～15:30	開所日数		185日			通所人数	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計	正式通所	1人	1人	4人	1人	7人	体験通所	1人	2人	7人	0人	10人	合計	2人	3人	11人	1人	17人	心のケアハウス	月～金 8:30～16:30	来所支援	心のサポート1名、学びサポート1名、保護者面談0名			7人	学校支援	心のサポート6名、学びサポート6名、保護者面談0名			家庭訪問支援	心のサポート0名、学びサポート0名、保護者面談0名		
事業名	対応日時及び時間	対応状況																																																														
教育相談	火・水・金 8:30～17:15	来庁相談：2件、電話相談：2件、学校訪問相談：18件、その他65件																																																														
けやき教室	月～金 8:30～15:30	開所日数		185日																																																												
		通所人数	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	合計																																																									
			正式通所	1人	1人	4人	1人	7人																																																								
			体験通所	1人	2人	7人	0人	10人																																																								
合計	2人	3人	11人	1人	17人																																																											
心のケアハウス	月～金 8:30～16:30	来所支援	心のサポート1名、学びサポート1名、保護者面談0名			7人																																																										
		学校支援	心のサポート6名、学びサポート6名、保護者面談0名																																																													
		家庭訪問支援	心のサポート0名、学びサポート0名、保護者面談0名																																																													
評価																																																																
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）																																																															
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）																																																															
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）																																																															
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）																																																															
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																																																																
児童生徒の実態に応じた対応の迅速化や、関係機関とのスムーズな連携が行えるよう学校教育支援室を整備し、取り組んでいく必要がある。			 学校教育支援室の各担当が連携し、児童生徒の実態に応じた対応が迅速に行えるよう、他の関係機関との連携も図っていく。																																																													
5 学識経験者の意見																																																																
教室活用はやや充実したとみられる。ただし、対象となる児童生徒の改善状況について、関係機関との連携とともに、一層のカンファレンスの機会を設けていく方向が考えられる。また、よりスピード感のある組織づくり、そして改善事例などについて、多くの教員や学校現場に共有させていく活動の充実も必要である。																																																																

施策体系	基本方針	一人一人を生かし、生きる力を育む学校づくり	基本目標	子どもたちの心身の健康と体力の向上																								
	具体的施策	健やかな身体を培う体育及び健康教育の充実		担当課 学校教育課																								
1 目的																												
健やかな身体を培う体育・健康教育の充実を進め、心身の健康と体力の向上を図る。																												
2 具体的事業																												
施策を構成する事業		目標指標																										
9「全国体力・運動能力調査の結果分析と改善のための対策の推進」		<p>新型コロナウイルス感染症による臨時休業後の児童生徒の体力・運動能力を把握し、児童生徒の健康と体力向上に努める。</p> <p>①けが人の比較（6月）</p> <table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>比較</td> <td>達成率</td> </tr> <tr> <td>44件</td> <td>40件</td> <td>-4件</td> <td>110.0%</td> </tr> </table> <p>②50M走の比較（小学校抽出校）5年男</p> <table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>比較</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.5秒</td> <td>9.4秒</td> <td>-0.1秒</td> <td>101.1%</td> </tr> </table> <p>③50M走の比較（中学校抽出校）2年男</p> <table border="1"> <tr> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>比較</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.2秒</td> <td>8.3秒</td> <td>+0.1秒</td> <td>98.8%</td> </tr> </table> <p>達成率 103.3%</p>			令和元年度	令和2年度	比較	達成率	44件	40件	-4件	110.0%	令和元年度	令和2年度	比較		9.5秒	9.4秒	-0.1秒	101.1%	令和元年度	令和2年度	比較		8.2秒	8.3秒	+0.1秒	98.8%
令和元年度	令和2年度				比較	達成率																						
44件	40件	-4件	110.0%																									
令和元年度	令和2年度	比較																										
9.5秒	9.4秒	-0.1秒	101.1%																									
令和元年度	令和2年度	比較																										
8.2秒	8.3秒	+0.1秒	98.8%																									
事業概要及び目標																												
<p>新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、児童生徒の体力低下が懸念される中、問題点や課題を分析し、努力事項を明確にした取組を推進する。</p>																												
3 令和2年度の取組と自己評価																												
取組と成果																												
<p>新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度は全国体力・運動能力調査が中止になった。宮城県小・中・高等学校体力・運動能力調査も令和2年度は悉皆調査から希望調査になったが、市内では、小学校6校（栗駒南小、高清水小、瀬峰小、鶯沢小、金成小、花山小）、中学校はすべての学校が希望して、取り組んだ。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、体力低下が懸念されたが、顕著な体力低下は見受けられなかった。各校も休憩時間や体育科において、各種学習カードを活用し運動意欲を高めるとともに、ソーシャルディスタンスを意識した運動を積極的に導入し、体力向上に努めた。</p> <p>けがについては、5月までの臨時休業により、6月上旬までのけがの報告は少なかったが、学校の活動に慣れた6月後半及び7月のけがの報告は多くなった。夏季休業明け以降は随分落ち着いていたが、教育委員会としても、体育科におけるけがの予防について周知を図った。</p>																												
評 価																												
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																											
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																												
<p>新型コロナウイルス感染症により、体育科の授業制限を実施したため、児童生徒の体力についての追跡調査を実施し、分析していく必要がある。</p>		➡	<p>全国体力・運動能力調査の結果を分析するとともに、体力向上の実績がある学校の特色ある取組を紹介する。</p>																									
5 学識経験者の意見																												
<p>感染症対策の中で概ね良好な状況となった。今後は、感染症対策を取りながら、体力・運動能力を向上させる様々な教育場面での工夫例を共有化させていくことや、家庭内への定期的なアドバイスを入れることも考えられる。あるいは学校外のスポーツ少年団との情報交換を一層行う必要も考えられる。</p>																												

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
10「ジュニア・リーダー育成事業・派遣事業」	ジュニア・リーダーに関する事業開催数
事業概要及び目標	現状値（令和元年度） 7事業 目標値（令和2年度） 7事業 実績値（令和2年度） 5事業 ※ 現状値（令和元年度）から目標値を7事業と設定し、10事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5事業を中止とした。 達成率 71.4%

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

ジュニア・リーダーの継続的な育成と活動の活性化を図るため、児童を対象とした事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により5事業が中止となった。

その中で開催したジュニア・リーダー初級研修会では、参加対象を広げて募集したところ、ジュニア・リーダー以外の小・中学生（7人）の申込みがあった。この子たちには、研修を通してジュニア・リーダーを知ってもらおう機会になり、今後ジュニア・リーダーとして活動してもらえるものと期待している。

ジュニア・リーダー関連事業（実施5事業）

事業名	開催日	参加人数	うちJL
北部管内ジュニア・リーダー技術研修会	8月8日(土)	3人	3人
宮城県市町村ジュニア・リーダー（中学生）技術研修会	9月13日(日)	1人	1人
ジュニア・リーダー初級研修会	11月28日(土)、3月21日(日)	41人	9人
みやぎジュニア・リーダー交流会	12月5日(土)～6日(日)	3人	3人
せみねっこ・たかしみずっこ ふれあいクリスマスパーティー	12月13日(日)	49人	2人
せみね合宿通学	中止	—	—
くりこまハロウィンパーティー	中止	—	—
かなりクリスマス子ども祭り	中止	—	—
築館ジュニアリーダー人形劇まつり	中止	—	—
ジュニア・リーダーフェスティバル	中止	—	—
合計		97人	18人

ジュニア・リーダー数 令和2年度 25人(内新規加入2人) 令和元年度 24人

評価

B

- A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
- B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
- C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
- D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

ジュニア・リーダーの登録人数が減少している。特にジュニアリーダー不在の地区では認知度が低いことから、ジュニア・リーダーの活動の周知と合わせ、募集活動が必要である。

また、コロナ禍においてもオンラインによるミーティングやイベント等の開催についても実施に向けて検討が必要である。



青少年育成団体と協力してジュニア・リーダーが活動できる事業を実施することで、ジュニア・リーダー活動を紹介するとともに、ジュニア・リーダーの新規加入につながる啓発活動を行う。オンラインによる事業実施のための体制整備等を行う。

5 学識経験者の意見

地域教育の活性化を図っていく上で、ジュニア・リーダー登録数を減少させないために、広報活動の一層の展開が必要である。今後は、オンラインによる意見交換や具体的な取組の紹介なども充実させていく必要がある。他方で、新たに社会に見合うように、育成事業の活動コンテンツの再検討・更新が必要かもしれない。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課

1 目的

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから若者へと成長し、社会の担い手として生活の基盤を確立し、公共への参画を通して社会へ貢献する時期である。このことから、地域ぐるみで社会教育活動や学校支援活動を推進し、家庭や地域の教育力を高める。

2 具体的事業	
施策を構成する事業	目標指標
11「少年体験教室事業」「合宿通学」「児童・生徒新春書初め会」「子ども陶芸教室」等	① 図書館でのおはなし会、こども陶芸教室等参加者の満足度 (令和2年度から) 達成率 目標値(令和2年度) 80.0% 実績値(令和2年度) 90.0% 112.5% ② 指導者育成技術研修会等受講率 現状値(令和元年度) 12.5% 目標値(令和2年度) 20.0% 実績値(令和2年度) 13.0% 65.0% 達成率 88.8%
事業概要及び目標	
<p>青少年教育の推進を図るため、自然体験など体験的な活動の事業実施や、青少年育成団体との共催による事業を実施する。また、各種事業に、ジュニア・リーダー、シニアリーダーの活用を進め、異年齢集団による交流を図ることとし、将来の青少年教育の指導者を育成する。</p>	

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

これらの事業は、様々な遊びや体験活動、人との関わりを通して豊かな心を育むことも目的としているため、オンラインによる事業に切り替えず、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら実施する準備を進めていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催することができなかった事業があった。実施した事業については、参加者から「楽しかった」「大変良かった」などの感想を得ている。

令和2年度 事業実施状況

事業名	期日・期間	対象	参加人数
図書館でのおはなし会	7月～3月 毎週土曜日	幼児、小学生	271人
こども陶芸教室(4回)	7月～9月	小学生以上	56人
手づくり絵本教室	12/5(日)	幼児、小中学生、一般	8人
青少年健全育成標語ポスターコンクール	3月	若柳地区小中学生	
計			335人

(中止)

少年体験教室事業、少年の主張栗原大会、あきる野市・栗原市友好親善交流事業、かなりクリスマスこども祭り、カブトムシ相撲大会、せみね合宿通学、作って飛ばそう！ペットボトルロケット、凧あげ大会、栗駒こどもまつり、いちばさまこどもまつり

評価	
B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。(達成率が概ね100%以上)
	B 概ね計画どおり目標が達成された。(達成率が概ね70%以上100%未満)
	C やや目標に達成できなかった。(達成率が概ね50%以上70%未満)
	D 課題があり、改善を要する。(達成率が概ね50%未満)

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

子どもたちが遊びや体験を通して健全な成長を促すため、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、事業が実施できる方法を模索する。

➡ 3密の回避、マスク着用、手指消毒といった感染防止対策を徹底し、広い会場又は屋外で行うなど、実施できる内容の事業にする。

5 学識経験者の意見

青少年期における成長に必要な体験活動の機会を提供する事業であったが、新型コロナウイルス感染症の流行により、中止となった事業も複数みられた。他地域・他学年との交流による事業でもあることから、子どもの精神的発達も期待することのできる事業であることから、実施に向けた取り組みに期待したい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興															
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課															
1 目的																			
市民それぞれが、生涯にわたって学習を継続するにあたり、生きていくライフステージによって、求められる学習内容や手法は変わってくるため、それぞれに応じた学習機会の提供と充実を図る。																			
2 具体的事業																			
施策を構成する事業			目標指標																
12「市民セミナー」（陶芸教室、園芸教室、手芸講座、女性講座、高齢者講座等）			アクティブカレッジ、女性教室等参加者の満足度																
事業概要及び目標			<table border="1"> <tr> <td>目標値（令和2年度）</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値（令和2年度）</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>121.1%</td> </tr> </table>		目標値（令和2年度）	80.0%	実績値（令和2年度）	96.9%	達成率	121.1%									
目標値（令和2年度）	80.0%																		
実績値（令和2年度）	96.9%																		
達成率	121.1%																		
<p>地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、ライフステージに合わせた生涯学習の場を提供するとともに、参加の状況に合わせてサークル活動に移行できるように支援する。また、高齢者の豊かな知識と経験を地域社会の活動に生かし、生きがいのある生活を促すため、積極的に高齢者の社会参加を進める。</p>																			
3 令和2年度の取組と自己評価																			
取組と成果																			
市民セミナーは、各教育センターで行うライフステージに合わせた事業である。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施回数や参加人数を制限するなどの対策を講じてセミナーを実施した。事業内容については、これまでの実施状況を踏まえ、講師と相談しながら工夫したことで、多くの参加者から満足の内容であったと評価された。																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業の種類</th> <th>事業名</th> <th>延べ参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シニアセミナー（60歳以上）</td> <td>アクティブカレッジ、花山寿康大学、松葉大学</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>レディースカレッジ</td> <td>女性教室</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>市民セミナー</td> <td>消しゴムはんこ講座、神楽教室（※）、園芸講座、手芸講座、こども陶芸教室（※）、料理教室</td> <td>325人</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合 計</td> <td>450人</td> </tr> </tbody> </table> <p>（※）は、講師が65歳以上であった事業</p>					事業の種類	事業名	延べ参加人数	シニアセミナー（60歳以上）	アクティブカレッジ、花山寿康大学、松葉大学	70人	レディースカレッジ	女性教室	55人	市民セミナー	消しゴムはんこ講座、神楽教室（※）、園芸講座、手芸講座、こども陶芸教室（※）、料理教室	325人	合 計		450人
事業の種類	事業名	延べ参加人数																	
シニアセミナー（60歳以上）	アクティブカレッジ、花山寿康大学、松葉大学	70人																	
レディースカレッジ	女性教室	55人																	
市民セミナー	消しゴムはんこ講座、神楽教室（※）、園芸講座、手芸講座、こども陶芸教室（※）、料理教室	325人																	
合 計		450人																	
評 価																			
A	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>																		
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針																			
セミナーの内容、参加者が固定化している傾向がある。また、実施する地域に偏りがある。			➡	地域住民のニーズにあった事業を実施するとともに、セミナーの実施方法等を各教育センターが共有することで、複数の地域で開催できるようにする。															
5 学識経験者の意見																			
多様化する市民の生涯学習内容に応じた学習機会の提供と充実を図るうえで重要な事業である。コロナ禍においても、感染対策を取り、制限のあったものの、事業が展開されたことは評価される点である。これまで同様に参加者が固定化される点の改善が、市民の学習機会を増やす観点からも、今後の課題であろう。																			

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯にわたる学習機会の提供		担当課 社会教育課
1 目的				
自分たちが暮らす栗原市について学習ができ、日常生活を快適なものにすることができるよう、暮らしに関わる情報や健康等について学べる市民大学を開設する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
13「くりはら市民大学」			令和3年度実施方針策定状況	
事業概要及び目標			目標値（令和2年度） 100%	
<p>市内在住の18歳以上の方(学生、前年度の修了者は除く。)を対象に、「くらし」や「健康」などの各テーマを設定し、外部講師による講座等を開設する。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により事業を中止としたことから、新しい生活様式に対応するよう、複数会場でのサテライト方式やオンラインでの講義など実施方法を検討し、来年度からの実施方針を決定する。</p>			実績値（令和2年度） - %	
3 令和2年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>市民大学の実施について、複数会場でのサテライト方式などオンラインでの講義の実施を含めて検討したが、受講生の情報通信機器の確認や会場分散に対応した通信・映像設備の確保など、オンラインでの実施には様々な調整等が必要であった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策に関する「市主催または共催のイベント・会議等の開催方針」等に基づき開催することが可能となったことから、実施方針を策定するまでに至らなかった。</p>				
評 価				
—	<p>A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）</p> <p>B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）</p> <p>C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）</p> <p>D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）</p>			
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針				
市民大学の開校にあたっては、新型コロナウイルス感染症に感染しないよう感染防止対策を徹底する必要がある。			➡	新型コロナウイルス感染防止対策ができる会場を確保するとともに、講師、受講生にはマスク着用等常日頃からの感染予防を啓発する。
5 学識経験者の意見				
栗原市民に生涯学習の機会を提供し、生涯にわたって学び続ける意識と意欲を喚起するうえで意義の大きな事業であるが、新型コロナウイルス感染症対応のために、中止となり評価が難しい。このような事業は、一部オンライン化を図ることで、時間の制約を受けずに受講できることもあり、今後はさらに市民の求める魅力的な講座の設定も必要になると考えられる。				

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

家庭・地域・学校の協働による「地域の子どもたちを地域で育てる」仕組みづくりを推進することで、地域の人材の活用を促進し、知識、技、文化などを伝え、子どもたちの「生きる力」や「志」を育む。また、地域全体で子どもを育てる環境づくりを推進することで、地域の教育力の向上や市民の生涯学習の成果の活用を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
14「協働教育推進事業」	協働教育各種推進事業への参加人数
事業概要及び目標	現状値（令和元年度） 2,057人
地域住民がボランティアとして子どもたちの学習及び体験活動等を支援する学校支援活動や地域活動などを実施し、家庭・地域・学校が連携、協力して「地域の子どもを地域で育てる」環境づくりを推進する。また、事業を円滑に実施するための体制（地域・学校・教育委員会）を構築するため、地域、学校との協議を進める。	目標値（令和2年度） 2,000人
	実績値（令和2年度） 1,615人
	達成率 80.8%

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

協働教育の意義と重要性の理解を深め、家庭・地域・学校が協働する仕組みづくりを推進するため、協働教育事業を実施した。学校支援活動は、すべての小中学校で実施することができた。放課後子ども教室は、1校において実施した。しかし、地域活動における学校支援ボランティアの参加人数は、新型コロナウイルスの影響により減少した。

令和2年度協働教育事業実施状況

事業名	期日	対象	事業内容	参加人数 合計
家庭教育学級	随時	篤沢小(25)、花山小(18)	家庭教育、食育	43人
子育てサポーター・サポーターリーダー情報交換会	7/22 3/22	家庭教育支援チーム員、家庭教育支援団体ほか	情報交換	14人
学校支援活動 (推進指定校)	通年	築館小(52)、瀬峰小(41)、志波姫小(38) 若柳中(38)、志波姫中(76)	読み聞かせ、登校見守り、職場体験、郷土学習、あいさつ運動、福祉講演など	245人
学校支援活動 (推進指定校以外)	通年	宮野小(36)、若柳小(67)、栗駒小(21)、 栗駒南小(268)、高清水小(42)、一迫小(11)、 篤沢小(21)、金成小(29)、花山小(153) 築館中(292)、栗駒中(59)、栗原西中(146)、 栗原南中(22)、金成中(26)	読み聞かせ、クラブ活動補助、交通安全講習、環境学習、ビジネスマナー講話、ジオパーク見学、郷土学習など	1,193人
放課後子ども教室	通年	宮野小学校、家庭教育支援チーム員ほか	牛乳パックを使ったヨーヨーづくり、紙を折りたたんだ6種類のパズルづくりなど	46人
北部管内協働教育研修会	11/26	小学校地域連携担当等教職員、生涯学習担当者	講演、実践事例発表など	14人
地域活動	12/13	瀬峰・高清水地区	ふれあいクリスマス会	49人
第1回協働教育推進委員会	3/9	協働教育推進委員	協働教育事業計画協議	11人
合計				1,615人

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

新たに開始する放課後等の学習支援として行う「くりはら未来塾」の円滑な実施を図る必要がある。また、地域と学校及び教育委員会をつなぐ推進体制（地域学校協働本部）の整備を図る必要がある。



学校教育課が行ってきた「学府くりはら塾」で培われた人材、ノウハウを引き継ぎ、くりはら未来塾を円滑に実施する体制を構築する。地域や学校と、協働本部の仕組みづくりを協議する。

5 学識経験者の意見

地域住民がボランティアとして子どもたちの学習や体験活動を支援することで展開される環境づくりとして、貴重な事業である。このような状況下で運営が難しかったと思われるが、学校支援活動が全ての小中学校で実施されたことは評価される点である。くりはら未来塾との連携による更なる展開に期待したい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	生涯学習活動の支援・社会教育事業や施設の充実		担当課 社会教育課

1 目的

図書館活動を通じて市民の生活に役立つような文化・教養の向上に努め、多くの市民の読書活動を推進する。そのため、図書等貸し出し環境の整備や各種事業やサービスの提供を行う。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
15「栗原市立図書館および公民館図書室の読書活動推進」 （図書館まつり、ブックラリー、子どもの絵本展示会）	市民一人あたりの図書貸出数
事業概要及び目標 市立図書館と9箇所の公民館図書室を結ぶネットワークシステムの活用による図書の相互貸借、乳幼児への絵本無償提供事業及びレファレンスサービスの実施、移動図書館車の運行などとおして読書環境の充実を図る。 また、広報くりはらや市ホームページによる情報発信の継続、さらにSNSを有効活用して市立図書館及び公民館図書室の利用を促し、読書活動を推進する。	現状値（令和元年度） 3.1冊
	目標値（令和2年度） 3.2冊
	実績値（令和2年度） 3.0冊
	達成率 93.8%

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

市立図書館及び公民館図書室の運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策として臨時休業の実施をはじめ、再開後の館内閲覧席の制限、イベントの縮小などを講じて感染拡大防止に努めた。
新型コロナウイルス感染症の影響により外出自粛が続く中、新たな試みとして、図書資料や視聴覚資料の同時のできる個人貸出点数の制限緩和などに取り組んだ。
また、利用者の利便性向上を図るため、市立図書館にパソコン優先席や公共無線LAN設備を整備し、利用者から「便利になった」等の好評を得ている。

年度	総貸出冊数	(総貸出冊数のうち公民館図書室貸出冊数)	総人口(年度末)	市民一人あたりの図書貸出数
平成27年度	217,994冊	61,474冊	70,895人	3.1冊
平成28年度	212,922冊	58,154冊	69,717人	3.0冊
平成29年度	206,405冊	60,320冊	68,946人	3.0冊
平成30年度	211,644冊	62,789冊	67,829人	3.1冊
令和元年度	204,441冊	59,609冊	66,618人	3.1冊
令和2年度	197,707冊	51,510冊	65,419人	3.0冊

評価

B	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

引き続き施設での感染防止対策を講じ、利用者の安全と安心の確保に努める。また、市民の“新しい生活様式”に対応するため、図書館や図書室としてどのような有効策があるのかを検討する必要がある。



現在、限定的に実施している図書資料及び視聴覚資料の貸出点数緩和について、実態を検証したうえで通常期での実施の可否を検討する。

5 学識経験者の意見

新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休業があり、事業実施も難しかったと考える。その点を考慮し、貸出冊数緩和など臨機応変に対応していた。また、ネットワークの整備が進んだことで利用者から利便性の向上が高まったとのコメントも見られた。新しい生活様式に対応した、図書館・図書室運営について、市民目線での対応を望みたい。

施策体系	基本方針	共に助け合い潤いに満ちた地域社会の創造	基本目標	「いつでも・どこでも・だれでも」 学べる生涯学習の推進と、学びを生かした地域づくりの振興
	具体的施策	国際理解のための学習や事業の推進		担当課 社会教育課
1 目的				
国際社会の中で、日本人としての自覚を持ち、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に生きていくための資質や能力を持った人材を育成する。				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
16「青空大使派遣事業」			令和3年度実施計画策定状況	
事業概要及び目標			目標値（令和2年度） 100%	
市内在住の中学2年生をオーストラリアに派遣し、グレートバリアリーフなどの大自然に触れ、ホームステイや現地校との交流により異文化理解の重要性を知る機会とし、将来を担う国際的視野を持った人材を育成する。 令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により事業を中止としたことから、来年度の実施に向けて派遣先の決定及び実施計画を策定する。			実績値（令和2年度） -%	
3 令和2年度の取組と自己評価				
取組と成果				
世界的に新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない状況において、オーストラリアでは外国人の入国が禁止されており、派遣事業ができる状況にない。そのため、令和3年度においても青空大使派遣事業の中止を決定している。				
評 価				
—	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針				
新型コロナウイルスの影響により、海外へ渡航することが難しい状況となっていることから、青空大使派遣事業の実施が困難となっている。			➡	海外への渡航ができない状況が続くようであれば、青空大使派遣事業の在り方を含めて検討する。
5 学識経験者の意見				
中学生に国際的視野を通じた異文化理解の機会を提供し、世界に開かれた意識をもつ栗原市民の育成にも資する事業である。新型コロナウイルス感染症の収束が見られないことから、令和2、3年度と中止になったことは残念である。実際に派遣し、現地の状況を見ることは大切であるが、オンラインを介し海外との交流や調べ方作業などにより、異文化理解を進める事も可能ではないかと考える。				

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	地域に根ざした文化芸術の振興
	具体的施策	文化芸術活動の支援・地域に根ざした文化芸術の推進		
				担当課 社会教育課

1 目的

市民が行う文化芸術活動の支援に努め、地域に根ざした文化芸術の推進を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
17「栗原みてけらいん美術展ほか各種展覧会」「各種芸術鑑賞会」	各種文化事業への参加人数
事業概要及び目標	現状値（令和元年度）12,842人(19事業) 目標値（令和2年度）5,000人(10事業) 実績値（令和2年度）1,395人(5事業) ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため目標値を10事業5,000人としたもの 達成率 27.9%
優れた芸術に触れる機会を提供し、市民の文化的資質の向上を図るため芸術鑑賞会、音楽会などを開催する。 また、市民の創作意欲の喚起と豊かな情操を養うため、市内外の絵画や書道などの作品展を開催する。	

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

優れた芸術に触れる機会と地域文化の創造に努めるため、各種文化事業を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、多くの事業を中止せざるを得なかった。一方、新たな取り組みとして、感染防止対策を行った上で栗原文化会館を会場に市民参加型コンサート「みんなでつなぐコンサート」を開催したところ、参加した演奏者、観客から「演奏する機会があつてよかった」「生の演奏を聴けて良かった」との感想をいただいた。

令和2年度

社会教育課実施事業（3事業）

事業名	開催日	参加人数	前年度人数
青少年劇場小公演	9/14・29	268人	445人
宮城県巡回小劇場	10/28	294人	167人
第13回栗原市写真展	2月～3月	674人	476人
計		1,236人	

栗原文化会館実施事業（2事業）

事業名	開催日	参加人数	前年度人数
グランドピアノ一般開放事業	10月～12月	72人	40人
市民参加型コンサート「みんなでつなぐコンサート」	3/14	87人	
計		159人	
合計		1,395人	

※R2新規事業

（中止した14事業）

ジャズコラボりはら、けやきステージ、くりはら市民大学基調講演会、河北美術展、栗原みてけらいん美術展、宮城水彩展、栗原市工芸展、栗原書道展、栗原市美術展、自主公演、ダンスフェスティバル、ファミリーミュージカル、わかやなぎ音楽祭、ふるさと劇場

評価

D	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

新型コロナウイルス感染予防ガイドライン及び栗原市主催又は共催のイベント・会議等の開催方針に則り、文化会館等の自主公演など実施に向けた検討が必要である。



新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で、市民のニーズに応える事業の実施に努める。

5 学識経験者の意見

市民が優れた文化芸術に接する機会を提供し、市民の文化的資質の向上と地域文化の創造につながる事業として高く評価できる。新型コロナウイルス感染症対策のため、非常に多くの事業が中止になった中、新たな取り組みが行われた点は評価される点である。事業目標を鑑みながら、今後も様々な新しい取り組みにも期待したい。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり 高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		
				担 当 課 文化財保護課

1 目的

先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
18「文化財標柱等整備事業」	文化財標柱等更新数
事業概要及び目標	現状値（令和元年度） 26基 目標値（令和2年度） 12基 実績値（令和2年度） 13基 達成率 108.3%
指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地（遺跡）に設置している文化財標柱等を計画的に更新する。また、埋蔵文化財包蔵地に設置することにより、無断開発を防止するための周知徹底を図る。	

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

文化財の保護啓発、周知のために市内に設置している指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地の木製と金属製の文化財標柱の中から経年劣化等により損傷が激しく、記載内容等が確認できない13基を選定し改修を行なった。改修と併せ設置場所について、これまで私有地に設置していたものを公有地に移動した。

○令和2年度 文化財標柱改修状況

地区名	築館	栗駒	一迫	鶯沢	花山	合計
指定文化財等	2	2	0	0	0	4
埋蔵文化財包蔵地	0	2	5	1	1	9
合計	2	4	5	1	1	13

○指定文化財・埋蔵文化財関係標柱等調査状況

	設置必要数	新設補修等必要件数			補修済件数	備考
		新設必要件数	補修必要件数	計		
築館	78	43	3	46	32	
若柳	78	18	7	25	53	
栗駒	174	36	37	73	101	
高清水	108	24	7	31	77	
一迫	240	8	62	70	170	
瀬峰	136	63	4	67	69	
鶯沢	23	0	2	2	21	
金成	109	34	17	51	58	
志波姫	70	7	25	32	38	
花山	104	19	18	37	67	
総数	1,120	252	182	434	686	

評 価

A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

埋蔵文化財包蔵地に設置する標柱について、周辺が遺跡であることを地域住民の方々に周知する工夫が必要である。 ➡ 私有地に設置しているものを優先に公有地に建て替える。

5 学識経験者の意見

市内に伝わる伝統文化財と文化財愛護意識の向上を目指すものである。市内には様々な文化財が存在しているが、その価値を正しく理解し、保存・保護に努めるためにも、重要な事業である。経年劣化による損傷の激しさが報告されていることから、早めの対応が求められる。

施策体系	基本方針	地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進	基本目標	文化財の保存と活用の推進
	具体的施策	文化財の保存・活用と継承活動の推進		担当課 文化財保護課

1 目的

先人が残したかけがえのない文化財を永く後世に保存・伝承していくとともに、これを活用して文化の創造に役立てていくことは、現代のわれわれに課された重大な責務です。特に、市内に伝わる伝統文化財の継承を図りながら、市民の文化財愛護意識の高揚を図る。

2 具体的事業

施策を構成する事業	目標指標
19「文化財普及啓発活動事業」	目標値 広報記事の掲載 12回 文化財パンフレットの発行 1回 企画展の開催 1回
事業概要及び目標	実績値 広報記事の掲載 12回 文化財パンフレットの発行 1回 企画展の開催 1回 達成率 100.0%
<p>市内に所在する文化財に関して、広報記事やパンフレットの発行、発掘調査成果についての展示等を行うことにより、広く文化財の価値を伝える。</p>	

3 令和2年度の取組と自己評価

取組と成果

市内の文化財の価値を広く伝えるため、広報くりはらに市内の文化財等に関する紹介記事を毎月掲載したほか、これまで文化財の指定や種別ごとに発行してきた文化財パンフレットについて、市内の遺跡からの出土品及び市内に伝わる工芸品の紹介として、それぞれ説明及び所在地を示した文化財パンフレットの発行を行った。市内で実施した発掘調査についての企画展を開催した。

実施事項	実施内容	備考
広報くりはらへの記事掲載	駒形根社の御神宝ほか計11件の文化財及び1件の文化財施設の紹介	「市内の文化財散策」として掲載（毎月）
文化財パンフレットの発行	市内の遺跡からの出土品及び市内に伝わる工芸品に関するパンフレットの発行	
企画展 くりはら遺跡発掘展	令和元年度実施の入の沢遺跡ほか計5件の発掘調査等成果に関するパネル説明及び出土遺物展示	場所：一迫埋蔵文化財センター 会期：令和2年8月4日～9月13日 開催日数：36日間

くりはら遺跡発掘展(8/4～9/13)観覧者アンケート
期間中観覧者数 71人 回答者数 17人 回答率 23.9%

質問	選択項目	選択者数	結果
展示内容について	A わかりやすかった	7人	理解度 88.2% (A及びB)
	B だいたいわかった	8人	
	C むずかしかった	2人	
展示説明について	A わかりやすかった	7人	理解度 82.4% (A及びB)
	B だいたいわかった	7人	
	C むずかしかった	2人	
	D 無回答	1人	
企画展について	A 満足	6人	満足度 82.4% (A及びB)
	B やや満足	8人	
	C やや不満足	2人	
	D 不満足	0人	
	E 無回答	1人	

評価

A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上）
	B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満）
	C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満）
	D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）

4 令和3年度に向けた課題・今後の方針

文化財パンフレットの発行や企画展の開催など実施している事業について、さらに周知を図る必要がある。



周知方法を検討し、その機会を増やすとともに、栗原の文化財についての理解が深まるよう、わかりやすい記事や展示を目指す。

5 学識経験者の意見

栗原市内にある伝統文化財の継承と市民の文化財愛護高揚を目的とした事業である。企画展が実施されたが、必ずしも多くの観覧者数ではなかったと思われる。しかしながら、企画展に満足した観覧者が多いことから、観覧者数が増えれば、事業効果としては高まることが予想される。今後は、市内には多くの文化財があることから、小中学生なども対象とした企画の実施なども期待したい。

施策体系	基本方針	楽しさと活力ある生涯スポーツの推進	基本目標	心身の健康保持増進とスポーツの推進
	具体的施策	スポーツ活動の支援・社会体育事業や施設の充実		担当課 社会教育課
1 目的				
<p>スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進と体力向上をめざし、「楽・楽・楽スポーツ」（注1）をスローガンに、市民と地域、スポーツ団体、行政などが互いに連携・協力をし、スポーツ活動の推進を図る。</p> <p>（注1）楽・楽・楽スポーツ…「する」楽しさ・「みる」楽しさ・「ささえる」楽しさを表現している。</p>				
2 具体的事業				
施策を構成する事業			目標指標	
20「築館陸上競技場改修工事」			第3種公認陸上競技場の認定	
事業概要及び目標			目標値（令和2年度） 100.0% 実績値（令和2年度） 100.0%	
<p>現在、小学生から高校生までの大会を中心に各種大会が開催されており、日本陸上競技連盟の第3種公認陸上競技場となっている。</p> <p>令和2年度末で公認期間が終了することから、現行の日本陸上競技連盟競技規則に合わせた競技場の改修を行い、公認期間を更新するもの。</p>				
3 令和2年度の取組と自己評価				
取組と成果				
<p>日本陸上競技連盟の第3種公認陸上競技場の認定を受けるため、築館陸上競技場の改修工事を施工した。</p> <p>令和3年3月14日（日）に、日本陸上競技連盟の公認検定が行われ、日本陸上競技連盟競技規則、公認陸上競技場及び長距離競走路並びに競歩路規定に適合したとの所見を受け、3月31日付で認定の決定を受けた。</p> <p>（工事概要） ウレタン切削・オーバーレイ工 A=7,113㎡ 既存ゴムチップ舗装改修（既存撤去、ウレタン舗装 t=10mm）343.9㎡ 水濠改修（D=700mm→D=500mm）1箇所 標識タイル撤去新設及びラインマーキング 1式</p>				
評価				
A	A 良好な成果をあげることができた。計画以上の成果が得られた。（達成率が概ね100%以上） B 概ね計画どおり目標が達成された。（達成率が概ね70%以上100%未満） C やや目標に達成できなかった。（達成率が概ね50%以上70%未満） D 課題があり、改善を要する。（達成率が概ね50%未満）			
4 令和3年度に向けた課題・今後の方針				
コロナ禍における施設の活用の仕方に注意し、適切に管理する必要がある。			競技参加者数や応援来場者の制限を行うなど、感染予防対策に努めながら、競技協会等と協力し公認陸上競技場として施設の有効活用を図る。	
5 学識経験者の意見				
<p>公認期間終了に合わせた改修工事であり、認定決定を受けたことから、多くの大会等で使用されることが期待される。市民のスポーツ・レクリエーションの実施であったり、小中高校生の各種大会などでの使用されることが考えられる。また、新しい施設でもあることから、ネーミングライツなども活用した、施設維持の方策等についても今後検討が必要であろう。</p>				

3 学識経験者の意見

○ 宮城教育大学大学院教育学研究科 教授 吉田 剛 氏

感染症対策によって業務が複雑化し続けている中で、全般的には、目標値を上回り、順調な状況にある。ただし、教育行政側からすると、教育活動の質的保証を具体的に十分に検証することに限界がある。そこで、本件に関わって、各項目のバックデータから具体的な課題や改善策を示すことができ、年間 PDCA に繋げられる利便性の高いシステムとなっているかどうか、データ集約・検証のためのシステム、そしてそのための利便性の高いツールの存在の再検討や更新をお願いしたい。例えば、教育行政の PDCA にみられる目標項目が、各学校・社会教育の目標項目の PDCA にどのように関わっているのか、それに市教育全体の体系（各教育機関との繋がり）において功利性が得られるかどうかなどの点検・整備、そのためのより効果的なシステム・ツールの開発が考えられる。他方で、市の地域的な課題を受けた点検・評価項目の新たな設定も検討したい。例えば、他の市区町村自治体との教育交流なども考えられる。その際に、市の地域的な強みと弱みを視野に入れ、相乗効果として産業振興や地域活性化に寄与できる取組になると一層よいであろう。他にも将来を見通して、SDGs や情報教育などの新規目標の設定などが考えられる。

○ 宮城教育大学大学院教育学研究科 准教授 黒川 修行 氏

今回の点検及び評価の結果報告書を見ている中で感じたのは、今年度は事業のほとんどで新型コロナウイルス感染症による影響を受けてしまっている点である。このことで、これまでの事業計画を再考、あるいは事業自体を中止せざるを得なくなるなどの障害が発生した。特に、子ども達を対象とした交流事業が挙げられる。どうしても、密接あるいは密集になる状況や感染予防管理という観点から、新型コロナウイルス感染症の状況がはっきりと分からない状況で実施することは難しかったであろうと判断できる。職域でも既に進められているが、様々な点でオンライン化が進んでいる。また、学校でも GIGA スクール構想も展開されることから、これらの ICT 技術なども組み合わせた形での活動を取り入れる可能性を今後見出したい。そのような中で目標達成に向け、様々な感染予防対策を行った上で、試行錯誤をした取り組みを確認することができ、頭の下がる思いであった。それらの企画においては、参加者から好意的な感想なども寄せられていることから、企画者においても、報われた気持ちとなれたのではないだろうか。このように、様々な取り組みが行われている中で、取り組みの知見も増えてきているであろう。これらの知見を情報共有し、新型コロナウイルス感染症下における事業運営に役立てるようになる必要もあるだろう。このようなことを意識した、市の様々なセクションにおける協働が期待される。

4 栗原市教育委員会の今後の方向性

宮城教育大学の2名の先生方からいただいた御意見を参考に、今後、次のとおり実施してまいります。

(1) 学府くりはらの学校教育（事業 NO. 1～9）

学校教育に関する事業については、コロナ禍ではあったものの感染対策や工夫を施しての実施により、全般的に結果が目標値を上回り、順調な状況にあると評価をいただきました。また、未だ落ち着かないコロナ禍の現状を踏まえ、事業を進める上でのICT技術等の活用についてご意見をいただきました。

今後も新型コロナウイルス感染症対策については、国・県の支援を受けつつ人的・物的な環境の整備を進めるとともに、家庭・地域と連携し、子どもたちの学びを止めないように取り組んでまいります。

確かな学力の育成に向けては、教育研究センターを活用した幼児教育・学校教育に関する研究や教職員の研修、特に児童生徒一人に1台配置されたタブレット活用のため、ICT推進モデル校を指定し、モデル校での実践・検証を踏まえての研修等を実施してまいります。

また、いじめ、不登校防止対策の推進に向けては、適応指導教室と心のケアハウス、教育相談を兼ねた「栗原市学校教育支援室」を設置し、不登校の未然防止や迅速な初期対応、いじめ等の各種相談の仕組みを構築してまいります。また、Q-U（学級満足度）調査結果の活用による、いじめ、不登校を生まない学級づくりを普及してまいります。

そして、健康と体力の向上に向けては、感染症対策を徹底するとともに、幼・小・中・義務教育学校を通しての基本的な生活習慣の定着、各園・各校での体力・運動能力を向上させる工夫に関する情報共有、スポーツ少年団との全国体力・運動能力調査結果等の情報共有を進めてまいります。

(2) 学府くりはらの社会教育（事業 NO. 10～20）

社会教育事業の取組みにつきましては、コロナ禍においても感染対策を取り、制限のあるなかでも事業を展開してきたことには評価をいただいております。また、新型コロナウイルス感染の終息が見えないなか、従来どおりの対応では立ち行かないことが危惧されることから、ICT技術なども組み合わせた形での活動を取り入れる可能性を見出したいといったご意見もいただきました。

令和3年度の生涯学習事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの事業が中止となったことから、ICTによる遠隔講義など「新しい生活様式」を取り入れながら、事業の実施に向けて検討します。

協働教育の推進につきましては、地域全体で子どもを育てる環境を構築する

ため、家庭、地域、学校及び関係機関との連携強化に努め、地域の人材を育成し、有効活用できる体制づくりを推進します。

文化芸術活動につきましては、市民のニーズを把握し、参加者に満足していただける魅力的な事業を企画するとともに、多くの市民に参加いただけるよう広報等を改善するなど事業の活性化を行います。

スポーツ振興におきましては、市民が行うスポーツ活動を引き続き支援していきます。また、令和3年度においてコロナ禍の影響により中止した栗原ハーフマラソン大会や宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭栗原地区大会などのスポーツ大会は、市民の健康増進、世代間交流、地域の活性化につながることから、来年度の実施に向けて感染リスクへの対応等も含め準備を進めます。

なお、公民館整備基本構想に基づく社会教育施設の整備や、図書環境の拡充による読書活動の増進につきましても、引き続き推進してまいります。

文化財の保存と活用の推進については、事業の重要性と事業効果向上の方策等についてご意見をいただきました。

文化財標柱については、経年劣化による損傷の度合いと周辺開発等への注意喚起の効果なども踏まえて整備の優先度を考慮した上で、今後も継続的に更新・移設を行い文化財に関する周知を進めます。

文化財の普及啓発活動については、企画展の観覧者数増加のため、事業の周知方法について検討を行うほか、小中学生が学べるコーナーを設けるなど幅広い年齢層の方々に市内の文化財の価値を理解いただけるよう努めてまいります。

